

第49回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会



会場	福岡市総合体育館	
日時	平成31年3月23日 (土) 15:00	
コート	Aコート	第5試合
カテゴリー	男子	2回戦
主審	川島 司	
第1副審	野田 宏樹	
第2副審	松田 茂治	

TEAM A			TEAM B		
福岡第一	101		72	長崎東	
福岡1位				長崎2位	
○				●	

【BOXスコア】

TEAM A		福岡第一高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
1	當山 修梧	10		5			
8	河村 勇輝	2	○		2		
13	神田 壮一郎	6	○	1	1	1	
63	齋藤 友紀	1			1	4	
23	真田 龍斗	2		1			
27	松本 宗志	2			2	2	
31	ハーバージャン ローレンス ジュニア	12		4	4	1	
37	仲田 泰利	6		3		1	
40	三宅 翔りーディローチ	15		6	3		
44	内藤 凌太	4		2			
46	小川 麻斗	6	◎	2		1	
54	内尾 聡理	6	○	3			
59	山田 真史	2		1		2	
60	クベマジョセフ スティーブ	6	○	3			
65	キエキエトピー アリ	21		10	1	1	
コーチ	井手口 孝						
合計		101	3	39	14	12	

TEAM B		長崎東高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	谷川 海斗	25	◎	4	6	1	2
5	加藤 健翔	9	○	1	3		3
6	森田 真央	9	○	1	3		2
7	松本 崇士	14	○	6	2		1
8	宮田 佳祐	2		1			
9	梅本 悠吏	0					1
10	萬屋 善	5		2	1		1
11	永野 威旺	10	○	1	3	1	4
12	猪股 寛大	0					
13	市原 拓馬	0					1
14	横山 昂輝	0					
15	中田 将暉	0					
16	坂本 和寛	0					
17	大崎 蓮	0					
18	中坂 悠人	0					
コーチ	内田 直志						
合計		74	7	24	5	15	

【戦評】

全九州大会2回戦、福岡県1位福岡第一対長崎県1位長崎東との対戦、福岡第一のスターティングメンバーは、#8、#13、#46、#54、#60、長崎東のスターティングメンバーは、#4、#5、#6、#7、#11。第1Q試合開始から福岡第一は#8、#46のガードを中心に得点を量産する。特に勢いづいたプレーは#46の連続3P、#60のダンクシュートであった。対して長崎東はアウトサイド陣のミドルショットで応戦した。開始5分、14-8と第1Q中盤は得点が停滞。均衡を破ったのは福岡第一の#65、インサイドを中心に攻めながらアウトサイド陣もバランス良く得点を重ねていった。第1Q28-13、福岡第一がリードで終了。第2Q福岡第一はインサイドのサイズを落とし機動力で勝負。開始3分で一気に差を広げる。福岡第一のブレイクで36-18。長崎東はタイムアウト後、巻き返しを図りたいところであったが、福岡第一は#31を中心に1対1でペイント内のシュートを積み重ねる。長崎東はマンツーマンからダブルチームを作りだし、セカンドリーブレイクからの得点とリバウンドからのセカンドシュートで点数を詰めていく。残り3分、福岡第一のスティールが目立ち、そのままファーストブレイクへ。点数が離れ、長崎東たまたまタイムアウト。しかし福岡第一の勢いは止まらず、52-36で前半終了。第3Q福岡第一#8がドライブで切り込んで周りの選手のレイアップ、ゴール下のシュートが増え、差が広がる。長崎東は残り5分でタイムアウト。タイムアウト後、ディフェンスをマッチアップゾーンに変え、オフェンスはピックプレーを増やし、リズムの良いシュートを始め始める。しかし福岡第一の強力なインサイドと速攻の速さについていけず、81-50で第3Q終了。第4Q長崎東は#4、#11の1対1で福岡第一のディフェンスを破り奮闘するも、得点の取り合いであれば福岡第一が優勢。101-72で試合終了。点数差はついたものの、最後までひたむきに攻め続けた両者の健闘を称えたい。

【戦評記者】 貞包 謙
福岡県バスケットボール協会